

(お知らせ)

令和3年 12 月2日  
(一社) 気仙沼風待ち復興検討会  
(事務局 気仙沼市教育委員会  
生涯学習課文化振興係:担当 幡野寛治  
TEL 226 22 6600 内線 123)  
ワールド・モニュメント財団  
(担当 日本代表 稲垣光彦  
TEL 080-6726-1308)

## 気仙沼風待ち歴史的景観保存再生プロジェクト 2021 年ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞のダブル受賞について

この度、一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会と ワールド・モニュメント財団が共同申請を行った「気仙沼風待ち歴史的景観保存再生プロジェクト」が、本年のユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が実施する「アジア太平洋文化遺産保全賞(UNESCO Asia-Pacific Heritage Awards for Cultural Heritage Conservation)」\*1において、優秀賞及び「持続的開発(Sustainable Development)」特別賞を受賞しましたので、下記のとおりお知らせします。

※1 民間部門及び官民共同の取組によるアジア太平洋地域における文化遺産としての価値を持つ建造物、場所及び資産の保全又は修復の優れた成果について表彰するもの。過去の日本における受賞例としては、同じくワールド・モニュメント財団が修復保存支援を行った<sup>すくひこ</sup>少名彦神社参籠殿(愛媛県大洲市、2016 年最優秀賞国内初受賞)や京都祇園祭大船鉾会所(2018 年最優秀賞受賞)などがあり、今回は 12 ヶ国・39 件の応募があった中から6か国9件のプロジェクトが選ばれ、気仙沼プロジェクトは優秀賞および、今日国際社会全体で取り組むべき課題とされる「持続的開発」に貢献したとされる特別賞を受賞しました。

### 記

1 発表者 ユネスコ・バンコク事務所

2 受賞したプロジェクトの概要

(1)事業名 気仙沼風待ち歴史的景観保存再生プロジェクト

(2)事業主体 一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会

(3)事業概要 2011 年 3 月 11 日の東日本大地震による津波にて被災した気仙沼風待ち地区に所在する 6 件の国登録有形文化財(今日現在)を修復し気仙沼風待ち地区の歴史的景観の持続的保存と継承を目的とした事業。ワールド・モニュメ

ント財団(米国NY)と公益財団文化財保護・芸術文化研究助成財団が国内外での基金集めなど修復保存活動を支援し、文化庁他多くの企業・個人の協力を得て約 10 年をかけ行った文化遺産保全プロジェクト。(経緯、建物の説明は以下「5. 参考」参照)

- 3 受賞理由 2011 年の東日本大震災により甚大な被害を受けた気仙沼の 6 つの歴史的建造物の復旧活動は感動的であり、また、災害から立ち直ろうとする町の転機にもなった。このプロジェクトは、歴史的町並みを構成する重要な歴史的建造物を単に修復するだけでなく、人々を励まし元気づけ、心を奮い立たせるものでもあった。津波により流失した部材を回収し、その土地固有の大工左官技術に配慮し巧みに耐震補強も施す一連の困難な作業は非常に高い技術水準と評価される。そしてまた、このプロジェクトは、仙台防災枠組みの精神にも沿う、“都市のレジリエンスと持続可能な開発”に文化遺産が重要な役割を果たし得ることを示すものでもある。(2021 審査員の講評)

#### 4 12 月 1 日授賞式(タイ バンコクにてオンライン形式でユネスコ・バンコクが主催)における受賞挨拶(気仙沼風待ち検討会 会長 菅原千栄)日本語訳

ユネスコ・バンコク及びご関係者の皆さま、審査員の皆さまありがとうございます。気仙沼およびワールド・モニュメント財団を始め気仙沼被災文化遺産の復興にご尽力いただいた人々を代表し一言御挨拶を申し上げます。

2011 年の東日本大震災により被災から早 10 年という月日が経ち、皆で力を合わせ復興に取り組んできましたが、最近のコロナ禍の影響で戻りかけた観光、漁業も影響を受けました。しかし、最近漸く、観光客も増えるなど、復調の兆しが見え、町にも明るさが戻り始めております。

そのような折に今回の栄誉に恵まれましたことはとても嬉しくまた、気仙沼のみならず他の被災地の復興に大きな力を与えてくれます。今まで守り続けてきた気仙沼の歴史的町並みという文化遺産を修復保存につなげる努力が、これほど人々に元気を与え、町の復興につながり得たということは、とても新鮮な発見であるとともに、あらためて文化遺産の持つ力の大きさに気づかされました。

今回の受賞を糧にこれからも地域の文化遺産を大切に、気仙沼の復興に励んでいこうと思います。本日は本当にありがとうございます。

#### 5 参 考

##### ① 気仙沼風待ち歴史的景観保存再生プロジェクトの経過

- 被災後の人道支援活動が進む中、宮城県気仙沼市の内湾地区(風待ち地区)歴史的景観保存活動を継続すべく活動主体として風待ち復興検討会の立ち上げ準備を行い、内湾地区に大きな被害を被るも文化財価値を残す 6 軒の象徴的歴史的建物を修復し、風待ち地区の歴史的景観を再生・保存するプロジェクトを立ち上げた。

- プロジェクトを国際協調、官民協働で進めるべく公益財団文化財保護・芸術文化研究助成財団がワールド・モニュメント財団(WMF:米国)とともに、文化庁の協力を得てSOC (Save Our Culture “心を救う、文化で救う”) を立上げ(2011年11月)国内での募金活動を開始し、また同時に WMF が、隔年プログラム「文化遺産ウォッチ(2012年版 Watch)」に“緊急に支援を必要とする文化遺産”として登録し、海外支援活動を開始した。
- プロジェクト期間:2011年11月～2021年3月 修復対象建造物に関しては以下参照。

## ② 建物の特徴・被災後、修復後現況

### (ア)角星店舗(1, 2階)

気仙沼湾最奥の内湾に面して建つ竣工1930年頃の伝統的な塗り家造りの酒店。木造・2階建、切妻造・棧瓦葺の店造。平行四辺形という不整形な敷地形状に合わせた不等辺四角形の平面のため、両側の柱や出梁及び垂木などを平行四辺形に木取りし瓦や椀木に角度をつけるなど、希少な大工技術を用いた気仙大工の巧みで繊細な技術が随所に用いられた店舗建築で当時の造り酒屋の意匠をよく現在に伝えている。また、角星店舗は、気仙沼市の内湾地区における歴史的建造物の代表的な建造物であるとともに、我が国の建築が、屋根トラスや大壁の防火構造等、近代的技術と意匠を反映し始めた時期の造形の模範」となっており、建築技術的にも歴史的価値が高い建造物である。

1階部分は流失し、2階部分も漂流したが、既存位置より約30m北側の建物に衝突する形で漂着した。その後、解体工事までは敷地内にて曳家保存され、復原工事では土地区画整理事業による換地の位置及び形状の変更に伴い、被災前の建物位置から西に約8mの位置に配置することとなった。

復原された一階は家業の酒販売スペースとし、修復された二階は建物の東日本大震災からの復興を紹介する展示や各種文化関連イベントスペースとして開放。

### (イ)男山本店店舗

気仙沼湾最奥の内湾をほぼ南に望んで昭和大火(1929年)後に建てられた木造・3階建の店舗建築で、洗い出し仕上の外壁は、各階に蛇腹を廻し、パラペットは柱型や欄干格子及びゲートルなどで飾るなど、際だった存在である。特に沖の漁船から目立つパラペットの装飾と「男山」の屋号が印象的であり、市内魚町にあって、昭和初期の景観を今に伝えている。また、長方形平面に見えるがすべての隅部が直角でなく、

隅部以外柱のない枠組壁構造(2×4工法のような)に近い構造で、角屋店舗、武山米店同様気仙沼の建築の特徴を表している

津波により酒販売・オフィスであった3階建て本店建物の、1,2階部分が流失し、3階部分のみ達磨落としのように下に落ち、隣地に流され残った。(酒造施設は高台にある別建物で津波被害を免れた)。地盤沈下あり。

復原された1階は家業の酒販売スペースとし、2階は会議やイベントスペースに利用され、修復された3階は建物の修復過程を紹介する展示や各種文化関連イベント等に活用されている。

#### (ウ)武山米店店舗及び主屋・石蔵

奥行に従い幅の狭まる扇形の敷地にあわせ、銅版を貼るなど凝った町家風造りの木造2階建米店兼住宅(竣工1930年)。屋根は切妻造の鉄板葺で、正面の垂木を扇形に配し、精緻な意匠となっている。2階の腰壁と戸袋は銅板張である。1階は正面を店舗とする。2階の平面形状は、敷地の制約から台形平面をなす。背後に石蔵が附属する。

津波により1階部分が大きくさらわれ、敷地の制約から台形平面をなす2階の座敷2室も浸水被害をうけた。地盤沈下あり。

復原された一階は家業の米穀販売店舗として、2階座敷は伝統的和風建築として開放し、炊飯をテーマにした博物館として活用する隣接する蔵とともに地域の食文化継承を図っている。

#### (エ)小野健商店土蔵:

陸前高田の気仙大工が3年半掛かって建てた(竣工1946年)桁行3間、梁間2間規模の2階建の伝統的土蔵建築。外壁は白漆喰塗で腰を海鼠壁とする。また、戸口回りは黒漆喰塗とし、笠木状の上枠には雲に鶴、土戸には波に亀の鍔絵を飾り、優秀な気仙大工の左官技術を良く残す。

2階まで押し寄せた津波により、白漆喰塗の外壁や腰の海鼠壁がはがれ、装飾や黒漆喰塗の戸口回りも損傷するなどした。幸い、後ろの山の崖のおかげで建物自体の流失は免れたが地盤沈下がおこり、排水外構などが損壊した。

被災後に再建された家業海産物業用の事務所の奥にあり、プロジェクトにより修復された土蔵は1・2階ともに気仙沼の地場産業である漁業にまつわる資料など昭和の漁業に関する私設のミニ資料館として一般に開放されている。小野健は現在、土蔵の

なかでは漁業や震災の歴史を伝える展示のほか、定期的に関われる展示会などギャラリーとして活用されている。

#### (オ)三事堂ささ木(店舗及び住宅・土蔵)

数少ない昭和大火前の大正時代の建築で、土蔵と擬洋風建築を並べた和洋折衷の陶器店兼住宅(竣工1912-1925年)で気仙沼の歴史的町並み景観を構成する貴重な建物である。店舗・住宅:間口5間,奥行3間2尺の2階建店舗に,奥行3間半の2階建住宅が接続する。屋根は寄棟造の鉄板葺である。正面1階は改修されているが,2階窓は楕形ペディメントと窓台で洋風に飾る。ガラス窓棧割も技巧的である。外壁は2階軒裏までを白漆喰仕上げとする。また土蔵は、桁行3間,梁間2間規模の石蔵造2階建てで,道路側妻面の1,2階に窓を開く。屋根は切妻造の棧瓦葺で,1階に瓦葺庇を付ける。外壁は白漆喰塗である。南面中央,店舗内部に戸口を開き,漆喰塗の両開き土戸を釣り込む。小屋組は洋風トラスである。

津波により外壁破損、店舗含め内部の浸水被害。蔵は、外壁のなまこ壁、内部の左官壁が損傷。

家業の瀬戸物雑貨商を続けるとともに修復された土蔵スペースをギャラリースペースにし、各種展文化活動展示スペースとして活用。

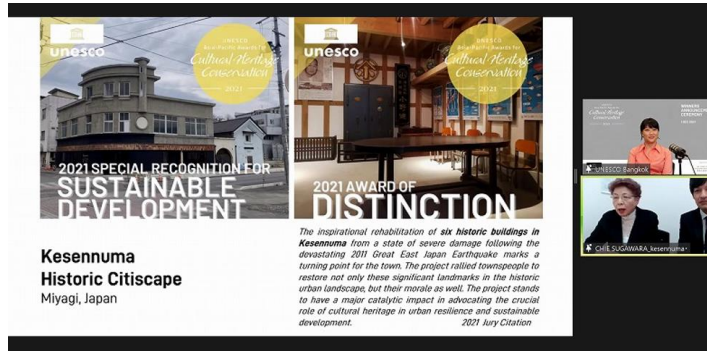
#### (カ)千田家住宅(主屋・土蔵・石蔵)

千田家住宅主屋:内湾地区の交差点に面して建ち、木造モルタル塗で外壁に水平の張出しを廻らせる建物で、アーチ門、北・南蔵が付属している(竣工1930年頃)。隅部分は円弧状平面で塔屋風に三階を設け、また煙突状の飾り窓を付けてアクセントとするなど、表現主義を取入れ昭和初期の船舶をイメージした洋風建築の代表例として市民に親しまれている。

波高約6メートル(2階の窓の半分くらいまで来た)の津波で、外壁および内部に大きな被害を受けたが、奇跡的に建物自体の流失は免れた。

当プロジェクト対象は主屋1階で、2階および隣接する蔵建物は将来的に修復予定。プロジェクトで修復された主屋1階は地域の公開イベントなどに活用されている。





写真(左)12月1日のオンライン受賞発表会にて紹介される気仙沼プロジェクトと答礼の挨拶を述べる復興検討会の菅原会長と幡野事務局長

被災後写真>



角星店舗(2階)



男山本店店舗(3階)



武山米店店舗



小野健商店土蔵



三事堂ささ木



千田家住宅



<修復後写真>



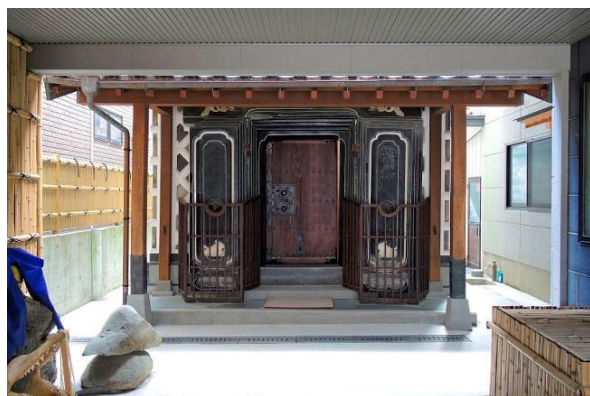
角星店舗



武山米店店舗



男山本店店舗



小野健商店土蔵



三事堂ささ木



千田家住宅